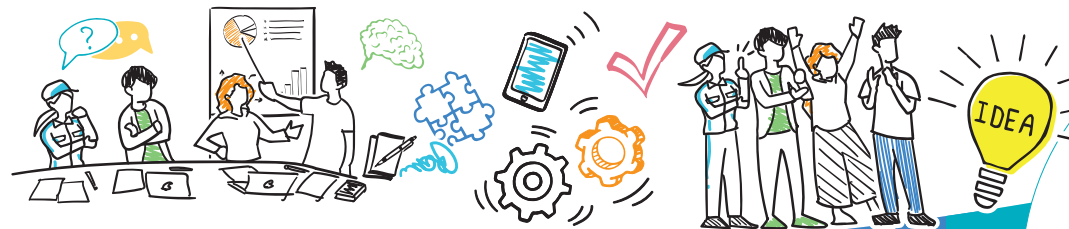


レゾナックの技術と社会のつながり—歩み—

これまでに旧昭和電工、旧日立化成が技術・製品を通じて提供してきた価値の事例と、2023年の両社統合後、技術シナジーによって生まれた共創の事例を一部紹介します。レゾナックはこれからも「共創型化学会社」として持続的な成長と企業価値の向上を目指します。

ウェブサイトの「沿革」もあわせてご覧ください。



2023年 レゾナック誕生 RESONAC

半導体・電子材料、モビリティ、イノベーション材料、ケミカルなどを展開し、川中から川下まで幅広い素材・先端材料テクノロジーを持つ機能性化学メーカーとして第二の創業を遂げました。

共創の事例

新規感光性フィルムの開発により回路のさらなる微細化に貢献

性能化学品事業部のポリマー合成技術と感光性材料事業部の共創で、プリント配線板回路のさらなる微細化や高密度化を実現する新規感光性フィルムを開発。



分析カラム「Shodex」×「Gelpack」製品ラインナップの拡充・製造体制の強化

旧昭和電工および旧日立化成の両社で販売している分析用のカラムを、統合を機に両社のラインナップにそれぞれの製品を追加、あわせて両社の持つ強みを活かした共創を推進。充填剤（材料粒子）の改良などにより、分析カラムの性能向上へ。



その他の事例は各ページをご覧ください

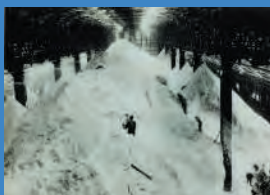
[P39 / 各事業での共創事例](#)

[P68 / 計算科学を使用した共創事例](#)

1930's

電気の原料化、国産技術の育成に取り組む

1908年に沃度の製造販売を行う総房水産(株) (日本沃度の母体) が設立。1931年に昭和肥料(株)が国産法による硫酸(硫酸アンモニウム・肥料)の製造を開始。1939年に日本電気工業(株) (元日本沃度(株)) が国産アルミニウム製造成功、工業化。1939年にこの2社が合併し、昭和電工(株)が誕生。



2003

脱炭素、資源循環を実現するケミカルリサイクルを開始

プラスチックケミカルリサイクル事業開始。2022年にはリサイクル量累計100万トン達成。

2006

電気で動作するあらゆる機器の省エネルギー化に貢献するキーデバイス

パワーデバイス用SiCエピウェハー(受託)製造開始。データセンターのサーバー電源や鉄道車両、EV向けデバイスなどで採用拡大へ。



2017

世界最高レベルの電極品質で、鉄資源をリサイクル

黒鉛電極事業を営むSGL GE社を買収。さらなるグローバル展開へ。

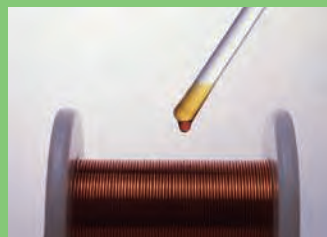


旧昭和電工

旧日立化成(昭和電工マテリアルズ)

1912

電気製品に欠かせない、電気絶縁ワニスの国産化に向け研究開始
当時、輸入に頼っていたモーター用絶縁ワニスの研究を開始、1914年に国産化に成功。



1955

電子回路の大量生産を実現し、家庭のテレビ普及に貢献

プリント配線板用銅張積層板「MCL」は、印刷の原理で同じパターンを電子回路を大量生産の実現に貢献。

1992

電子機器の信頼性を高める半導体の高密度化に貢献

熱による半導体封止材のひび割れを解消する、耐リフロー性エポキシ樹脂封止材の販売を開始。



1998

電子機器の充電効率を向上させ、省エネルギー・小型化を実現

充電効率を向上させるリチウムイオン電池用負極材の量産を開始。



2001

軽量化で、モビリティの未来に貢献

長年培った樹脂成型技術により、日本で初めてバックドアモジュールの樹脂化に成功。軽量化による燃費向上、CO₂削減に貢献。CASE※1進展の鍵に。



※1 CASE(Connected:コネクテッド, Autonomous:自動運転, Shared & Service:シェアリング/サービス, Electric:電動化)